

よさや、アドバイスを文章で記述する後半部分を分析、点数化し、集計した。満点(全てのグループについての記述が、Aである場合)を100点に換算して、順位を導き出した。なお、AからDのランクづけは、以下の基準によった。

- A 自分なりの見方(意見)をもって具体的に記述しているもの
- B 記述内容は明確だが、自分なりの見方や具体性に欠けるもの
- C 漠然とした印象を断片的に述べているもの
- D 記述のないもの(「特になし」を含む)

JUDGING PAPER FOR WRITING GROUP

NO(/o) NAME (*Mami, K*)

TO GROUP NO, 7 班へ

1. 手紙文の説明はよく聞こえましたか。

A B C

2. 手紙の内容は充実したものでしたか。
(具体的か、工夫していたか、分かりやすいか)


A B C

3. 発表内容で「いいことを伝えようとしていたな」と感じた点を書いてみよう。

シヤのこしも 身身に何から何か
という気持が 良かったや

5. 発表に対してアドバイスや励ましの言葉を一言贈ろう。

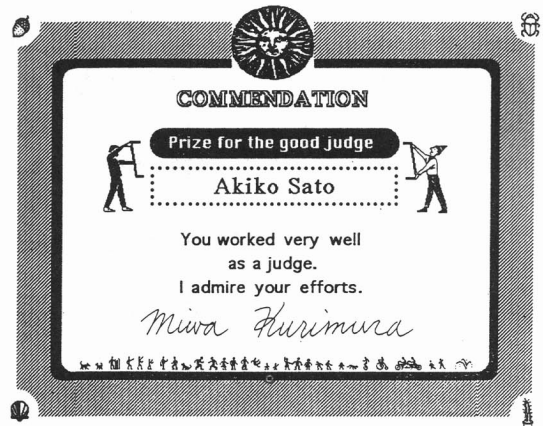
よし、発表がきこ
えいところが
あって、よし 頑張った。♡



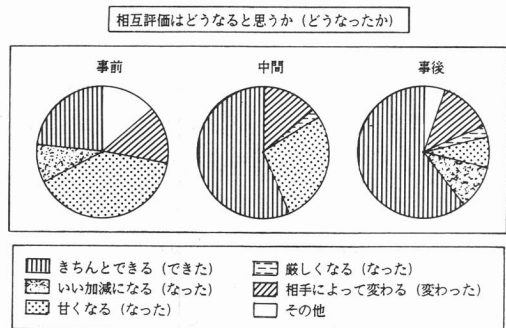
ビデオの時よりも優秀なジャッジになって、優しくしかも厳しく評価してあげよう。各班が終わるたびにきちんと書いてあげよう。

異文化理解の授業では、各グループの発表後にジャudgingペーパーの記入時間を設けたため、記載内容の充実が図られた。記載内容は、全体的には「よい」ところを見つけほめてあるものが多かった。中には、教師のコメントよりも厳しいものもあり、生徒は厳しい評価であってもそのまま素直に受け入れていた。事後のアンケートの中で、

相互評価についての感想を自由記述する欄を設けたが、その中で「みんながジャッジなので発表もきちんとし、きちんと聞けた」「自己評価と同じで、いいならいい、悪いなら悪いなりの評価ができた」「他人のいいところやこうの方がいい」というところを書けたのでよかったなどという記述があった。もちろん「相手によって甘くなったり厳しくなったりした」という評価もあったが、全体の感想としては「よかった」という感想がほとんどであった。



次のグラフは相互評価について事前の予想と中間の感想、事後の感想を表したものである。



このように、事前では否定的な考えがほとんどであったが、中間、事後では肯定的な評価の方が多くなった。特に「甘くなる」という予想に対して、「甘くなった」という結果が中間、事後と大幅に減少しており、ジャッジとして相手をきちんと評価したという自信が感じられる。生徒の気持ちや発達段階を十分に考慮した上での相互評価は、